みんなと倶楽部

My hometown Kaketsuka

MINNATO CLUB 掛塚 ESTD.2016

第11号

P1 旧津倉邸・旧掛塚郵便局 一般公開

P2 旧津倉邸探訪 其の七 くりものやの独楽

P3 帝国館調査 其の弐

P4 ちょっとい～け？ 松井美重子さん（横町）

「丘浅次郎の展示会」
＆法多山厄除け団子の販売

旧掛塚郵便局では、掛塚生まれでダーウィンを日本に紹介した生物学者・丘浅次郎の展示会を開催しました。

「丘と掛塚」と題した朝日新聞の4本の記事（筆者は郵便局が実家の私、長谷川 智）、伝記風のパネルや丘の著作や直筆原稿のコピーを展示しました。

大勢の人に訪れていただき、丘の知名度をアップできるように説明用資料を配ることが出来ました。

また、局舎前では法多山の厄除け団子の販売を行い、「遠州のうたのお姉さん」を目指す「うめたちあきさん」が歌でお客さんを集めてくれました。

記事　長谷川 智

丘浅次郎

掛塚生まれ。蛭、ホヤなどの分類、発生について研究。進化論の啓蒙活動に貢献し、1904年に日本の大衆向けに書かれた初の進化論の解説書である「進化論講話」を著す。それ以外にも「生物学講話」・「最新遺伝学」など旧制中学水準の生物学教科書を多く執筆し、『丘浅次郎著作集』全5巻がある。

「掛塚まつり」が開催された10月20日、21日の2日間、旧廻船問屋・津倉家住宅の見学会を開催。今回も、おおぜいの見学客が訪れ、私たち「みんなと倶楽部 掛塚」会員も見学会のガイド役を楽しく務めさせていただきました。

津倉家住宅があるのは掛塚砂町。屋敷の前へ砂町の屋台が曳かれて来ましたので、すぐに2階に駆け上がり、改修された千本格子越しに屋台を見下ろすことができました。

掛塚の旧家には、窓に格子が嵌められた家がたくさんあります。こんな格子越しに見る屋台も、「掛塚まつり」ならではの風景と言えるかも知れません。

また、今回初めて、作詩家＆シンガーのうめたちあきさんのライブコンサートが、津倉家の庭園でも開かれました。広縁に座り、うめたさんの歌に耳を傾ける人たちの顔は、どの顔もほっこりと癒された表情でした。

記事　斉藤朋之

ちょっとい～け？

温故知新！掛塚を知る「に～さ・ね～さ」の方々に、掛塚生まれの主婦二人組（のりこ＆さゆり）がインタビュー。今回は、横町の松井美重子さんにお話を聞いてきました。

松井美重子さん　83歳（横町）

横町生まれの横町育ち。「みい姉ちゃ」こと美重子さんに昔の想い出をお聞きしました。

―自然の中、みんなで遊ぶ

昔は 自然の中で遊んだもんで、細葉で「畳」や「提灯」を作ったりさ、「ままごと」ん時は「お金」とか「お箸」んなったりしただよ。近所のお蔵の階段を上がって「仏様」だって言って拝んだりね（笑）。

「ままごと」は上の衆がお父さんお母さん役で、下の衆は子ども役、いちばん小さい子が赤ちゃん役をやるだよ。「お父さん行ってらっしゃい」って言うとお父さん役が「行ってきます」って三輪車で出掛けて行くだに。お母さん役が「今日はこの子がお腹が痛いって」って言うと、お医者役が「じゃあ診てやる」って「松の葉」のとんがった方で注射打つだもん。痛くてね～、あれには参ったね（笑）。

「おはじき」や「あやとり」、正月は「羽子板」なんかもやってたね。昔はさ、女の子が生まれると正月にお在所で豪勢な羽子板を買ってくれただよね。

ひな祭りには菱餅を家でつくだに。緑はヨモギ、白はそのまんまで赤は紅だったかいやぁ。おでこ様（お人形）には小さくなった子供の着物を着せただよね。

あの頃は男も女も学年も問わず一緒に遊んでたから「陣取り」や「かくれんぼ」「カッチン玉」「将棋」もよくやったね。

―シジミ採り

昔はねえ、うなやすの南でシジミががんこ獲れただに。貝をさらってもすぐに残ったシジミが透けて見えるくらい綺麗な水が流れてて、あれは良かったねぇ（笑）。うなやすの前は流れもそんなに無くて深いもんでか、黒くて大きいのが獲れてね、足の親指と人差し指でつまんで拾っただに。お百姓やってる衆は昼間はシジミを獲って、夕方涼しくなってから畑をやってたよ。

―台風の後には「こあし」拾い

大雨がやむとリヤカーを引いて海へ拾いに行っただよ。砂浜で拾ったこあしをさぁ、紐で縛って背中にしょって堤防に置いたリヤカーまで運ぶだけど、木が濡れてるもんではぁ重くて重くて。小さいのを拾やぁいいだに欲をかいて大きいのを拾うもんでさ（笑）。それを母親と一日に二回も行った事があっただけど、あれはおとましかったね。

拾ったこあしはすぐに使うと塩で窯を痛めるもんで、どこの家でも家の前に山にしてあって、それを少しずつ崩してご飯を炊いたりお風呂を沸かすのに使っただよ。

―お盆の早朝、牛茄子の材料を庭に・・・？

毎年茄子は二十五本から三十本くらい植えるだに。大きくするのに五日くらいから十二日までは採らんように成らかいとくだよ。毎年待ってくれる人がいるもんで、去年の台風ん時は傷がつかんように命がけだったよ（笑）。あとで目が無いだ尾が無いだって言わんでも良いように小豆やススキや金魚草も全部揃えて庭のゴザへ並べとくじゃん。後は勝手に持ってってもらうだよ。朝ごはん食べてく人もいるだけどね（笑）。

古くからの習慣を大切にされているみい姉ちゃ。正月のお餅つき、五月の柏餅作りなどは御自宅で会社の方々やご近所さん達と賑やかにする事が多かったそうです。実は私は子供の頃「ものもらい」や「しもやけ」ができるとみい姉ちゃにおまじないをしてもらったんです。そんな世話好きなみい姉ちゃは、神様、仏様、おいべっ様、それから太陽にも日々の「感謝」の気持ちを込めて毎日手を合わせているそうです。私たちも見習わなくては！

［取材・記事 のりこ＆さゆり］

ままごとにも使った細葉。私達も提灯作りに挑戦しましたが・・手裏剣になりました。（笑）

ずっと長い間続けている就寝前の日記。・・・明日になると忘れちゃうでね。（笑）

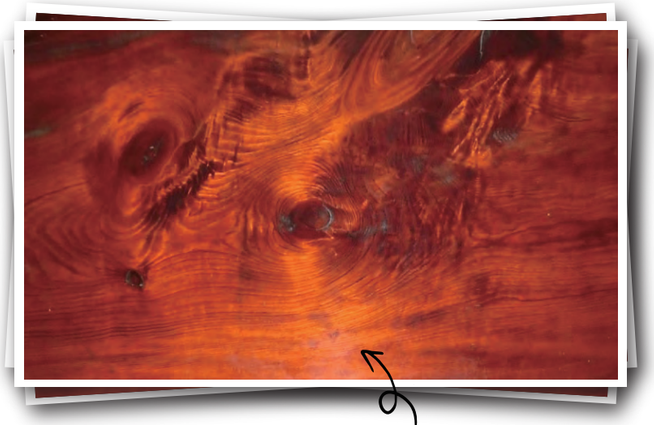
みんなと倶楽部 My hometown Kaketsuka

MINNATO CLUB 掛塚 ESTD.2016

●会　長　池田藤平
●事務局　名倉慎一郎、大沢利行
●編　集　靄田茂巳、山内紀子、鈴木小百合 須田明広、長谷川 智

お問い合せ
ご興味のある方は下記までご連絡ください！
☎0538-66-4775（名倉）

床板に浮き上がった龍の顔と海鳥の舞

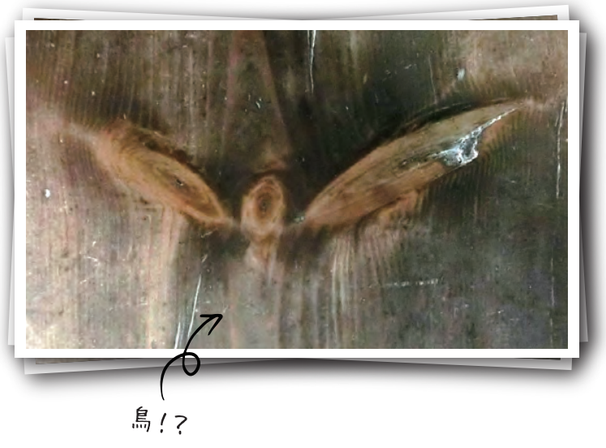


旧廻船問屋・津倉家住宅の最大の見どころは、何と言っても木材。製材業・材木商でもあった当家ならではの良材をふんだんに使い、腕の良い掛塚の大工や建具屋の技術の粋が結集して出来上がった傑作であるということ。

そんな津倉家住宅に、新たな見どころが見つかりました。その1つは、2階の床板に浮き出た龍の顔。床の間に使われた松の板の木目が龍の顔のように見えます。

旧津倉邸探訪・・・其の七

そしてもう1つは、2階へ上る階段を上がり切った所の床板。床板に浮き出た節の形が、カモメか？千鳥か？羽を広げて空を舞う海鳥のように見えます。これらは、偶然なのか？それとも、意図的なのか？



10月20日、21日に開かれた見学会に訪れたプロの大工さんの話によれば、「これらの板は明らかに一点物。2つとして同じ模様が浮き出ている板がないのですから、人の目に触れる場所の床に意図的に使ったのは間違いない」とのこと。つまり、「木挽きが板に挽いた時に見つけた模様を、大工も当主も気に入ったからこそ、目につく場所に使ったのだ」と言うのです。

龍は天竜川、海鳥は掛塚湊から船の乗り出す太平洋を表しているのです。おそらく、津倉家に招かれた客人たちの間でも、この木目や節が話題になったことでしょう。あなたの目にも、私が見たのと同じように龍の顔や海鳥の舞が、きっと見えるはずです。

記事　斉藤朋之

くりものやの独楽

掛塚まつりの2日間、今年3度目となる出店をさせていただきました「くりものや」です。

今回は何と言っても独楽（こま）！

屋台が前に止まるたびに、「おい、独楽はあるけ？」と駆け寄ってきては、

「俺ぁこんなに大きいのを特別に作ってもらったっけよ」

「自分で色を塗ってさぁ」

「こうやって投げてなー」

「芯を相手の独楽にくすげるだよなぁ」

「先っぽを自分でとんがらかしてなー」

幼馴染同士、独楽談義に花が咲きます。

みなさん、すっかり悪ガキの顔になってました（笑）

そんな光景が、各町の屋台が止まるたびに繰り返されました。

父親から聞いていた以上に、独楽は人気の遊びだったんだなーと驚かされました。

正月あたり、「独楽回しの会」をやったら面白いかもなー、などと考えてます。

帝国館（掛塚劇場）調査 其の弐

今回は実際の舞台の様子を描いていただきました。国定忠治の一場面です。（イラスト 井熊さん）

懐かしの映画ポスター

みなさんの想い出

大変お待たせいたしました！第二弾ではこれまでの取材で登場した映画のポスター、舞台劇の一幕、そして皆さんの想い出を集めてみました。帝国館の写真は残念ながら見つかっていませんが、皆さんの記憶の中にはたくさんの楽しい思い出が残っていました。

帝国館に劇団が来るのが楽しみだったねぇ。
年に一度、高松舞踊劇団や八千代劇団がくると嬉しくて嬉しくて。着物やちゃんこうを着た「ちんどんや」が昼間から町の中を歩くもんで、みんなサワサワしてて。私も早くから座布団を持って場所取りの行列に並んだよ。（Mさん）

帝国館にはしょっちゅう行ったよ。映画を見た帰りに感動して涙をこぼして帰ってくるような時代だった。（Uさん）

あんまり覚えてないけど歌手は菅原都々子とか岡 晴雄とかがきたよ。まだまだたくさん来たと思うよ。
映画は観てる途中にしょっちゅうフィルムが切れるもんで、つないでただよ。(笑)（Tさん）

タカマツは「綺麗」とにかく綺麗だった。着物もお化粧も綺麗、ポーズを作ってニコッと笑った時に「キラッ」と光る銀歯も綺麗でね。ライトで照らされてるもんで余計に綺麗だった！だから銀歯に憧れて・・タバコの包の銀紙を自分の歯に巻いてニコッと笑う真似をしたね。（Tさん）

夜は楽しみって言うと帝国館へ行ってチャンバラ映画をみた。当時は時代劇がおおくてさ笛吹童子、鞍馬天狗、そう云うのを見たね。芝居もきたし、女子プロも一度来ただよね。舞台の上にリングをつくって女力道山なんて名前がついた人も来たよ。（Mさん）

掛塚の人たちはみんな、楽しみに見に行ったと思います。場所を取るお布団を持って並んで・・。
フジとかタカマツとかいう歌劇団が来た時は凄い人が集まって、二階が人の重みで落ちそうになったって話を聞いた事があるわ。学校でも「路傍の石」という映画を見に連れて行ってくれたのを覚えています。（Hさん）

歌劇や芝居や映画があって。チャンバラは良く観たなぁ。
レビューには綺麗な女の子が出ててさ。(笑)
終わってから正木屋のお風呂に行くと役者さんが入ってくるだよ。花村歌劇団だったかな。
俺と同級生でさ剣戟（けんげき）に憧れて劇団についてって俳優になったやつがいたよ。帝国館は俺らにとってはオアシスだったね。（Sさん）

皆さんの帝国館の想い出募集中！
のりこ＆さゆりまで！！

調査はつづく・・・